

食品廃棄物リサイクル

食品の売れ残りや食べ残し、または食品の加工や調理過程において大量の食品廃棄物が発生しています。ユニーでは発生抑制と減量化により最終的に処分される量を削減するとともに、食品廃棄物の循環型リサイクルを実施しています。

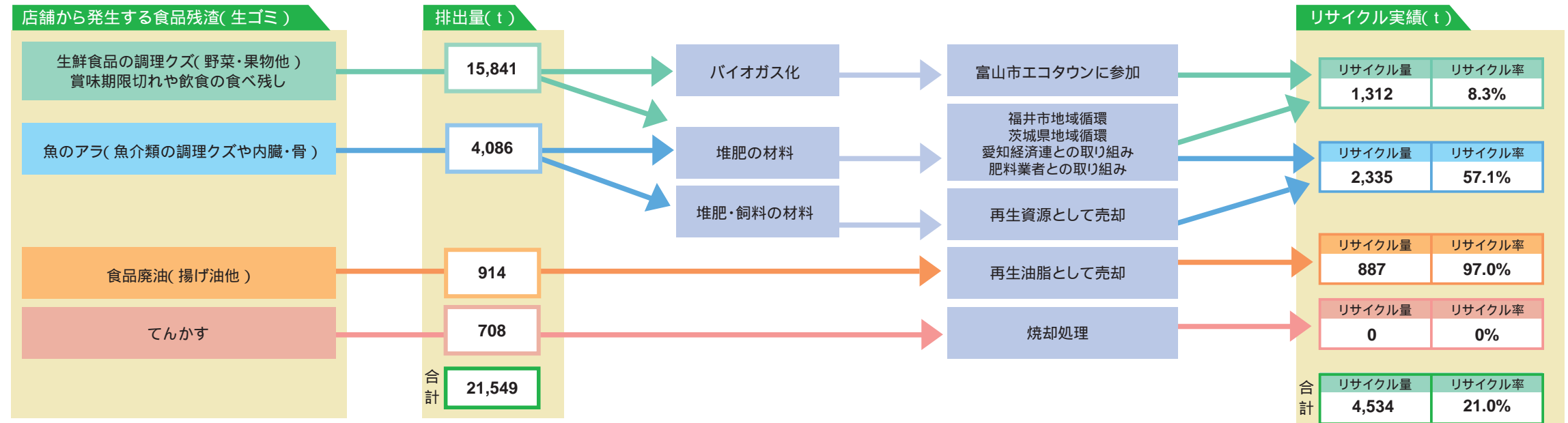
食用廃油は再生油脂として、排出量はほぼリサイクルできました。リサイクル促進で困難な生ゴミは、それ自体を原料にした堆肥で栽培した作物を販売するところまで、ようやくたどり着きました。魚のアラは、地域によって再生処理施設への搬入ができていない店舗があります。今後はリサイクルルートを確認し、リサイクル率の向上に取り組みます。



ユニーの生ゴミリサイクルの方針

- 安全であり環境負荷が少ないこと。
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 再生資源として有効であること。
(有価資源になり再廃棄しない)
- 経費が抑えられること。
(公共処理料金との比較)
- 継続できる方法であること。
(リサイクルルートが確立していること)

これらの条件から外れることなく、できるだけ地域の中で循環するように努めています。



データは、ユニー㈱の2003.2.21 - 2004.2.20のもの。

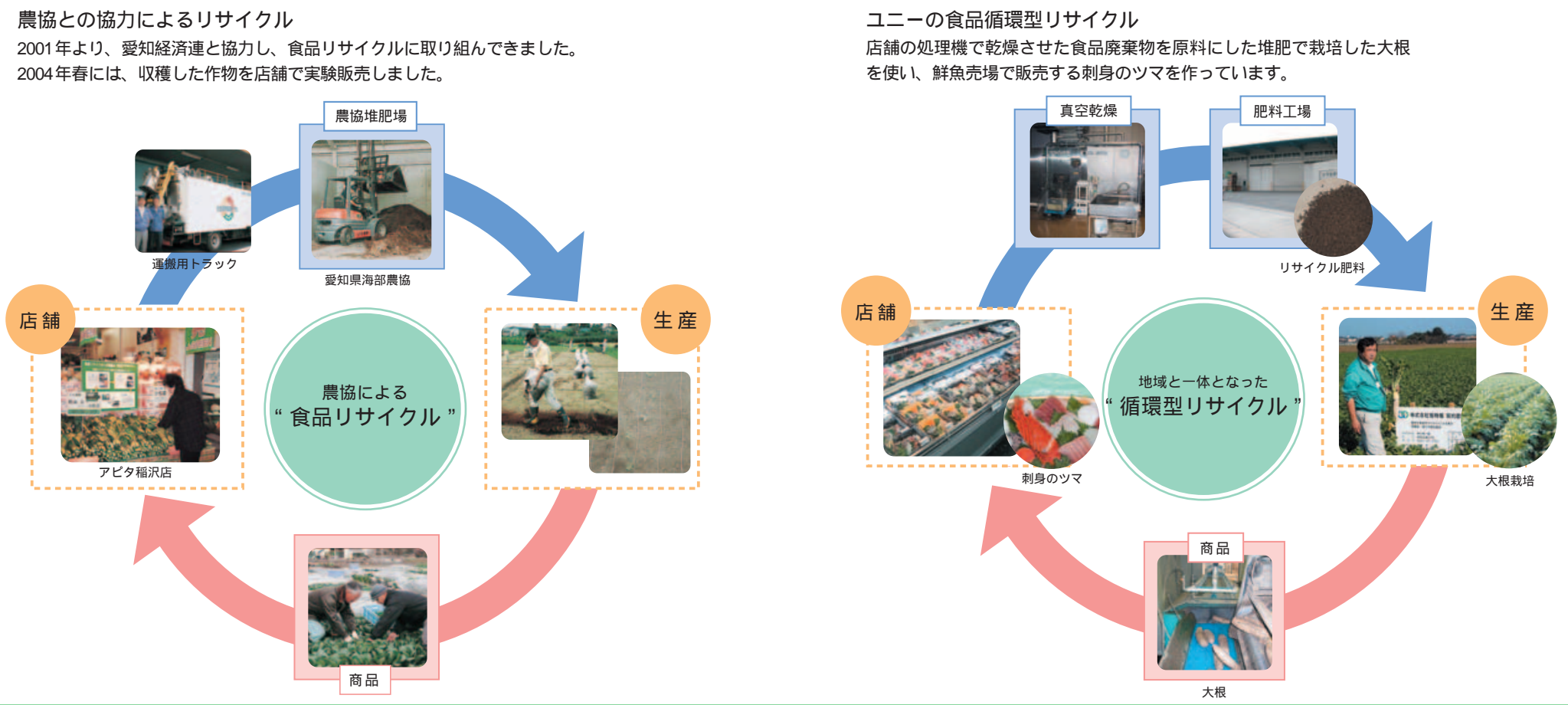
食品リサイクル法

(食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律)

食品廃棄物のうち肥料飼料などに有効利用されるものを「食品循環資源」と呼びます。食品リサイクル法では、「循環型社会形成推進基本法」に定める基本原則に基づき食品循環資源の再生利用等の手法に関する優先順位を定めています。

- 生産、流通、消費の各段階で食品廃棄物そのものの発生を抑える「発生抑制」を行う。
- 再資源化できるものは肥料や飼料などへの「再生利用」を行う。
- 廃棄されるものは「脱水・乾燥」などで「減量」して処分しやすいようにする。

食品残渣(生ゴミ)から製造した堆肥で栽培した作物を販売しました。



TOPICS

各店舗による環境活動

ユニーでは、各店舗が積極的に独自の環境活動を実施しています。サンテラス掛川店では、「生ごみの減量化・再利用」として、飼料の再利用や魚のアラの水きり徹底を始めました。このような取り組みによって、掛川店は「ごみ減量とリサイクル先進モデル事業」に、市内小売業第1号で登録されました。

サンテラス掛川店